

豚肉情勢

項目	内容	備考																																																															
供給	1.国産	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">国内生産量の推移</th> <th colspan="2">農水省出荷予測 (千頭:%)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">国内出荷頭数</th> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">出荷予測</th> </tr> <tr> <th>千頭</th> <th>前年比</th> <th>頭数</th> <th>前年比</th> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>16,338</td> <td>98.3</td> <td>R3年 11月</td> <td>1,446</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H30年</td> <td>16,429</td> <td>100.6</td> <td>R3年 12月</td> <td>1,496</td> <td>98</td> </tr> <tr> <td>R1年</td> <td>16,320</td> <td>99.3</td> <td>R4年 1月</td> <td>1,401</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>R2年</td> <td>16,686</td> <td>102.2</td> <td>R4年 2月</td> <td>1,326</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>R3年 7月</td> <td>1,313</td> <td>96.8</td> <td>R4年 3月</td> <td>1,421</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>R3年 8月</td> <td>1,326</td> <td>104.4</td> <td>R4年 4月</td> <td>1,383</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>R3年 9月</td> <td>1,389</td> <td>103.1</td> <td colspan="3">※令和3年9月22日更新</td> </tr> <tr> <td>R3年 10月</td> <td>1,417</td> <td>95.7</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	国内生産量の推移			農水省出荷予測 (千頭:%)		暦年	国内出荷頭数		暦年	出荷予測		千頭	前年比	頭数	前年比	H29年	16,338	98.3	R3年 11月	1,446	100	H30年	16,429	100.6	R3年 12月	1,496	98	R1年	16,320	99.3	R4年 1月	1,401	99	R2年	16,686	102.2	R4年 2月	1,326	99	R3年 7月	1,313	96.8	R4年 3月	1,421	94	R3年 8月	1,326	104.4	R4年 4月	1,383	95	R3年 9月	1,389	103.1	※令和3年9月22日更新			R3年 10月	1,417	95.7			
	国内生産量の推移			農水省出荷予測 (千頭:%)																																																													
暦年	国内出荷頭数		暦年	出荷予測																																																													
	千頭	前年比		頭数	前年比																																																												
H29年	16,338	98.3	R3年 11月	1,446	100																																																												
H30年	16,429	100.6	R3年 12月	1,496	98																																																												
R1年	16,320	99.3	R4年 1月	1,401	99																																																												
R2年	16,686	102.2	R4年 2月	1,326	99																																																												
R3年 7月	1,313	96.8	R4年 3月	1,421	94																																																												
R3年 8月	1,326	104.4	R4年 4月	1,383	95																																																												
R3年 9月	1,389	103.1	※令和3年9月22日更新																																																														
R3年 10月	1,417	95.7																																																															
2.輸入	<p>○ 令和3年11月の全国と畜頭数は速報値で1,400千頭(11/30まで集計)で、前年同月比96.4%となっている。稼働日数は昨年より1日多く、1日当たりの平均と畜頭数は70,020頭(前年実績:76,446頭/日、前年比△6,426頭/日)となっている。</p> <p>○ 農水省食肉鶏卵課の令和3年11月26日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年12月1,496千頭(前年同月比98%)、翌年1月1,401千頭(同99%)、同2月1,326千頭(同99%)、同3月1,421千頭(同94%)、同4月1,383千頭(同95%)で今後5か月間合計頭数で前年比97.0%と前年をわずかに下回ると見込んでいる。</p> <p>○ 令和3年10月の輸入通関実績は豚肉全体で77.9千ト(前年同月比107.5%、前月比104.9%)となった。内訳は、チルドが33.6千ト(前年同月比95.6%、前月比94.6%)、フローズンは44.4千ト(同118.7%、同114.3%)となった。チルドは現地価格の高騰の影響で前年を下回ったが、フローズンは中国の買い付けが弱まった欧州産の増加により前年比を上回った。主な国別では、チルドは米国16.2千ト(前年同月比99.8%)、カナダ15.1千ト(同86.3%)、メキシコ2.2千ト(同169.0%)となり、フローズンはスペイン14.0千ト(同200.9%)、デンマーク7.5千ト(同124.8%)、メキシコ7.0千ト(同89.5%)、カナダ2.8千ト(同85.6%)、米国2.0千ト(同45.8%)と、北米勢の数量減が目立つ。</p> <p>○ (独)農畜産業振興機構が11月25日に公表した豚肉の需給予測では、11月の輸入量は、チルドが北米の現地価格の高止まりの影響等により前年をかなりの程度下回るが、フローズンは中国の買い付けが弱まったために値下がりが欧州産の増加のため、前年をかなり大きく上回り、合計でも前年を上回ると見込んでいる。12月もこの傾向は続き、チルドは前年を下回るがフローズンは前年を上回ること、輸入量全体では前年を上回ると予測している。このため10月から12月までの3か月平均では、チルドは前年に及ばないが、フローズンの増加で、輸入量全体で前年を上回るとの報告されている。</p>																																																																
需要	1.家計消費	<p>○ 総務省発表の令和3年9月期家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,889g(前年同月106.8%)、支出金額が2,639円(同101.3%)となり、本年2月以外の7か月ぶりに購入量・金額ともに前年を上回った。(※前々年度同月比:購入量111.2%、金額108.2%)</p> <p>○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の10月の販売統計速報によると畜産部門の売上高は1,140億円(前年同月比99.3%)、既存店ベース98.3%)と前年同月を下回った。牛肉・豚肉とも、輸入品を中心とした価格の上昇傾向により販売の伸び悩みが報告されている。</p> <p>○ 日本チェーンストア協会が公表した10月販売概況によると、畜産品の売上は886億円(店舗調整後で前年同月比99.9%)となり、前年をわずかに回った。前月に続き鶏卵は好調で、鶏肉の荷動きも比較的良好ながら、牛肉・豚肉・ハム・ソーセージ類の鈍い荷動きが報告されている。</p> <p>○ 11月の荷動きは、月初から落ち着いた展開が続いたが、気温が低下するに伴い鍋需要が高まり、月末にむけてスライス系の商材を中心に引き合いが強まった。そのなか、国産物・冷蔵は、バラが始終好調で、続いてカタロースも良好な荷動きとなったが、ロース・モモ・挽材は苦戦が続いた。また、国産物・冷凍品は、荷余り感がない締った需給が続いており、バラを中心に堅調な荷動きが続いている。一方、輸入品は北米での現地価格の高止まりと通関遅れが恒常化しているなか、チルドはカナダ産を中心に品薄状態が続いており、量販店等のベラーを中心とした引合が強く、フローズンは、緊急事態宣言の解除により、低迷を続けた外食需要が緩やかに回復に転じるなか、荷動きは復調傾向にあり、緩やかに回復に向かっている。</p>																																																															
	2.小売動向 10月概況																																																																
在庫	3.加工肉仕向量	<p>○ (独)農畜産業振興機構が11月25日に公表した豚肉の需給予測によると令和3年10月末の推定期末在庫量は182.8千ト(前年比89.5%、前月比97.5%)となり、前年を大きく下回った。内訳は、輸入品の在庫が161.4千ト(前年比87.3%、前月比97.5%)、国産品が21.4千ト(前年比110.5%、前月比97.7%)となり、輸入品は前年実績を下回り、国産品は前年実績を上回った。同機構によれば、国産品と輸入品を合わせた今後の期末在庫の推移は、10月が180.9千ト(同92.8%)、11月が177.8千ト(同94.4%)と、前年を下回って推移するものと予測している。</p>																																																															
	1.在庫																																																																
枝肉相場	1.R3年11月速報値	<table border="1"> <tr> <th colspan="3">加工品仕向量</th> <th colspan="2">市況の推移(東京市場)*税込み</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">加工品仕向量</th> <th rowspan="2">暦年</th> <th colspan="2">豚枝肉「上物」</th> </tr> <tr> <th>千ト</th> <th>前年比</th> <th>円/kg</th> <th>前年比</th> </tr> <tr> <td>H29年</td> <td>376.6</td> <td>101.6</td> <td>H29年</td> <td>569</td> <td>108.6</td> </tr> <tr> <td>H30年</td> <td>376.6</td> <td>100.0</td> <td>H30年</td> <td>518</td> <td>91.0</td> </tr> <tr> <td>R1年</td> <td>372.1</td> <td>98.8</td> <td>R1年</td> <td>524</td> <td>101.2</td> </tr> <tr> <td>R2年</td> <td>376.7</td> <td>101.2</td> <td>R2年</td> <td>561</td> <td>106.9</td> </tr> <tr> <td>R3年 6月</td> <td>31.7</td> <td>96.1</td> <td>R3年8月</td> <td>623</td> <td>98.3</td> </tr> <tr> <td>R3年 7月</td> <td>32.7</td> <td>98.0</td> <td>R3年9月</td> <td>600</td> <td>96.5</td> </tr> <tr> <td>R3年 8月</td> <td>30.2</td> <td>99.8</td> <td>R3年10月</td> <td>528</td> <td>98.1</td> </tr> <tr> <td>R3年 9月</td> <td>35.1</td> <td>116.4</td> <td>R3年11月速報値</td> <td>492</td> <td>92.7</td> </tr> </table>	加工品仕向量			市況の推移(東京市場)*税込み		暦年	加工品仕向量		暦年	豚枝肉「上物」		千ト	前年比	円/kg	前年比	H29年	376.6	101.6	H29年	569	108.6	H30年	376.6	100.0	H30年	518	91.0	R1年	372.1	98.8	R1年	524	101.2	R2年	376.7	101.2	R2年	561	106.9	R3年 6月	31.7	96.1	R3年8月	623	98.3	R3年 7月	32.7	98.0	R3年9月	600	96.5	R3年 8月	30.2	99.8	R3年10月	528	98.1	R3年 9月	35.1	116.4	R3年11月速報値	492	92.7
	加工品仕向量			市況の推移(東京市場)*税込み																																																													
暦年	加工品仕向量		暦年	豚枝肉「上物」																																																													
	千ト	前年比		円/kg	前年比																																																												
H29年	376.6	101.6	H29年	569	108.6																																																												
H30年	376.6	100.0	H30年	518	91.0																																																												
R1年	372.1	98.8	R1年	524	101.2																																																												
R2年	376.7	101.2	R2年	561	106.9																																																												
R3年 6月	31.7	96.1	R3年8月	623	98.3																																																												
R3年 7月	32.7	98.0	R3年9月	600	96.5																																																												
R3年 8月	30.2	99.8	R3年10月	528	98.1																																																												
R3年 9月	35.1	116.4	R3年11月速報値	492	92.7																																																												
2.予測 R3年12月	<p>○ 令和3年11月の東京食肉市場枝肉相場は速報値(11/30時点)で 492円/kg(前年比92.7%)と前年を下回った。11月は出荷頭数の伸び悩みと、輸入品の不安定な入荷状況が恒常化するなか、乱れた相場推移となった。相場は、上旬には500円台前半の保合いで推移したが、中旬から下旬にかけて日々のと畜頭数が7万頭台を超えるまで回復する中で、400円台後半まで下落を続けた。しかし、月末にと畜頭数が再び6万頭後半まで減少したため、相場は上昇した。この結果、月間平均価格では492円となり、前年同月価格を下回るとともに、今年4月以降で初めて500円を下回る価格となった。</p> <p>○ 農水省食肉鶏卵課の令和3年11月26日付肉豚生産出荷予測の12月出荷予測頭数は1,496千頭(前年同月比98%)と前年をわずかに下回る出荷頭数で、対過去5年平均で101%とほぼ平年並の予測となっている。内食需要は依然として底堅く、また、外食需要の回復が期待されるなか、出荷頭数の伸び悩みと11月下旬に発生したカナダでの洪水による輸入豚肉の影響が懸念され、相場は年末・年始の手当やクリスマス等の季節需要の後押しで、年末に向けて強含みな展開が予測される。なお、出荷頭数や新型コロナウイルスの影響に伴う行政対応等による相場への影響には引き続き注視が必要である。</p> <p><相場予想: 東京市場、税込み> R3年10月実績 R3年11月速報値 R3年12月予測 R3年1月予測</p> <p>【上物】(前年比) 528円(98.1%) 492円(92.7%) 550円(102.8%) 520円(104.6%)</p>																																																																